

女川町支援活動

1. 支援活動に参加したスタッフは松本市から参加した 3 名、仙台市に自宅があり、池田町に通う女川町出身の 1 名、安曇野市在住のトラック運転手 1 名を含め 16 名という大がかりな支援活動となりました。

4 トントラック 2 台、2 トントラック 1 台、乗用車 3 台という支援規模は前回は上回っただけでなく、その活動の量と質において、小さな町の支援行動として行いうる最大限の活動となったといえます。

2. 支援活動の中心の 22 日は残念ながら雨にたたられましたが、青空市の時間前から長蛇の列を作って配布を待つ町民の気持ちに動かされ、スタッフは大奮闘。分刻みで町民への物資提供を行うことになりました。

23 日には仮設住宅や水害地域の住民への戸別配布にとりくんで、これらも見事にやりとげました。

3. トラック隊が前日の未明に出発し、22 日早くに女川入りし大量の布団を体育館に運び込む作業まで終えたことは、活動全体を円滑にすすめる大きなポイントとなりました。

布団を体育館倉庫に一時保管を認めてもらえたことも支援物資の輸送のカギとなりました。

なお、これらの布団は 10 月 26 日、石巻からの支援隊 20 名によって総合体育館から仮設住宅に入居する住民にもれなく整然と配布され、大変感謝されました。

4. 義援金の一部は先発のチームが女川町商工会に届け、今後の支援活動や両町のつながりの足がかりをつくりました。

5. ただ、事前の下見や計画にもかかわらず、集会所が使えなかったり、配布場所を変更したりせざるをえませんでした。また、米や野菜の分量に相当の余裕があったために、配布に無理が生じる問題点も起きた。とりわけ、それらを仕分けするために時間を取られすぎたことは大きな反省点です。

トラックでの被災地への運び方、当日の青空市での配布方向や衣類の仕分けの方法、暖房器具と布団類とのセットのしかた、家電製品の安全チェックなど、今後の支援活動で改善すべき課題も多数残されています。

6. 今回の支援活動では、池田町商工会や J A 大北池田、ハーブセンターをはじめとする後援とともに、活動場所であるスペースゼロの提供、チラシの配布、精米、トラックの貸与など物心両面で活動を支えた様々な団体・事業所の方々の支えがありました。その意味で、池田町民ぐるみの支援活動となりました。

会計報告

活動収支 11 月 1 日現在

	収入	支出	残金
運営費	320,882	177,524	143,358
義援金	806,937	469,821	337,116
計	1,127,819	647,345	480,474



今後の活動について

1. 支援行動参加者の感想をまとめた冊子をつくります。
2. 梱包済みの衣類を女川の住民に届けます。
3. 義援金の残りを原資に、ひきつづき支援物資を被災地に届けたり、女川の物産を購入して池田町で販売したりします。
4. 大規模災害に対応する池田町での防災体制や危機管理体制などについて、検討を深め時期をみてシンポジウムなどを開いて町民に問題提起をおこないます。

11 月 20 日（日） 池田町商業祭で女川のさんま販売 ボランティア募集